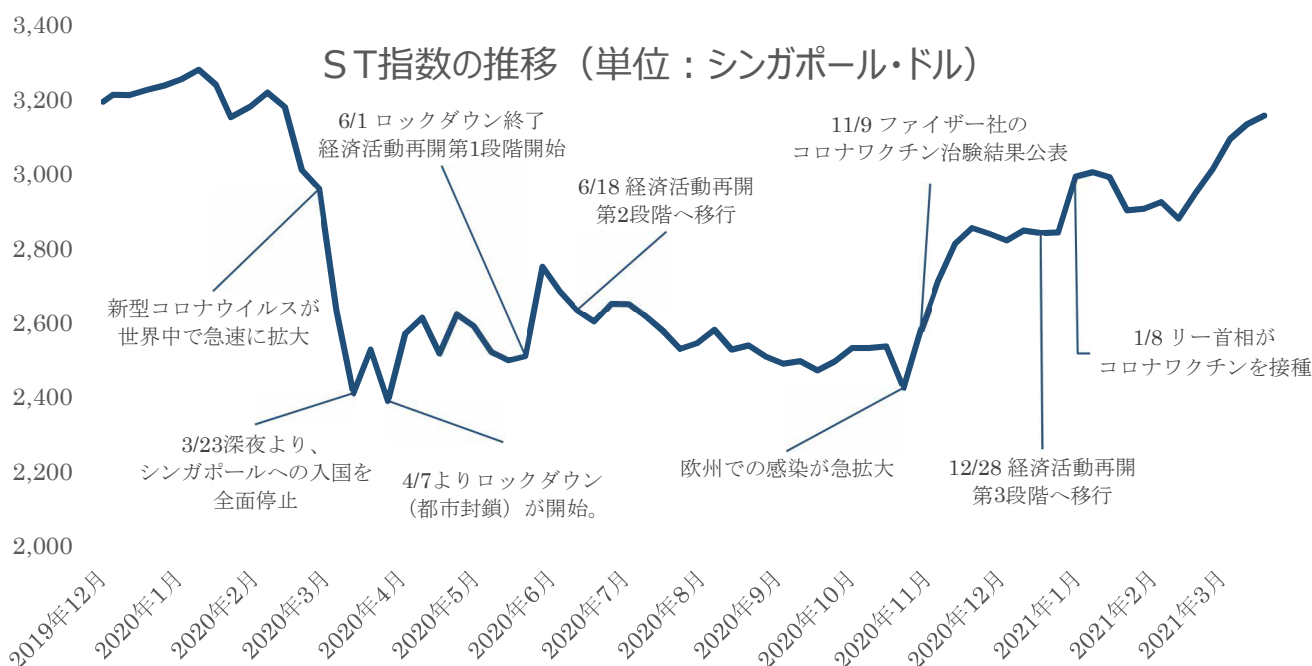


（件名） コロナ禍におけるシンガポール経済の動向について

令和 2 年度（2020 年度）は新型コロナウイルスの世界的感染拡大が経済、社会に大きく影響した年でした。今年度最後となります現地レポートは、コロナ禍におけるシンガポール経済についてシンガポールの株価市場や失業率をみながら状況を概観いたします。

■シンガポール国内株価（ST 指数）の推移について（出典：シンガポール証券取引所）



- ・ ST 指数とは、シンガポール株式市場の代表的な指標で、シンガポール取引所上場銘柄のうち時価総額が最も大きい 30 銘柄を対象とした指数です。日本の日経平均株価に相当します。
- ・ 2020 年 2 月下旬から、世界各地で新型コロナウイルス感染症が急速に拡大。3 月 23 日深夜より、シンガポールへの入国を全面的に停止したことに加え、4 月 7 日よりロックダウン（都市封鎖）が開始された時期に ST 指数が大幅に下落しました。
- ・ その後、各種経済対策の発表及びロックダウン終了後、ST 指数は一時回復しましたが、しだいに株価は下落傾向となりました。
- ・ 2020 年 11 月には、米・ファイザー社をはじめとした製薬会社のコロナワクチンの有効性が認められるようになり、2021 年 1 月にはリー首相がコロナワクチンを接種。以後医療関係者を中心に接種が進みました。株価については、ワクチンの有効性が確認された時期から上昇基調にあります。

■シンガポール政府による主な経済対策について（出典：JETRO）

2020 年 2 月 18 日	総額 64 億シンガポール・ドル（約 4,800 億円）のコロナ対策としての経済支援策第一弾。企業向けの雇用維持支援金支給（雇用サポートスキーム）や法人税の減税、21 歳以上の全国民に向けた現金支給等が主。
2020 年 3 月 26 日	総額 484 億シンガポール・ドル（約 3.8 兆円）の経済支援対策第二弾。航空会社への支援や企業向け融資、雇用維持支援金の支給が中心。



海外駐在員現地レポート・北海道 ASEAN 事務所（2021.3）

報告者 副所長 本間 純太（北洋銀行からの派遣）

2020年4月6日	総額51億シンガポール・ドル（約4,080億円）の経済支援対策第三弾。全ての業種で働く国民（永住権者）の4月分の月給75%（月給上限4,600Sドル）を雇用主に対して政府が支援するなどの策が中心。
2020年5月26日	総額330億シンガポール・ドル（約2.6兆円）の経済支援対策第四弾。これまで実施していた雇用サポートスキームの期間延長などが中心。
2020年8月17日	総額80億シンガポール・ドル（約6,400億円）の経済支援対策。終了が近づいていた雇用サポートスキームの期間延長（～2021年3月）や、シンガポール国内で利用できる観光クーポンの支給などが中心。
2021年2月16日	2021年度については、総額110億シンガポール・ドル（約8,800億円）の予算案を発表。公衆衛生対策や雇用サポートスキームの継続、深刻な打撃を受けている航空・陸上輸送・芸術関連への支援が中心。

■シンガポールの労働状況及び失業率について

・2020年12月末のシンガポールにおける就労者数は335万人（前年比▲16万人）と、過去約20年で最大の落ち込みとなりました。また、2020年の失業率は全体で3.0%（前年比+0.7%）と11年ぶりの高水準となるなど、雇用情勢が悪化していることが分かります。

（失業率の推移）出典：シンガポール労働省/Summary Table: Unemployment

2019年12月	2020年3月	2020年6月	2020年9月	2020年12月	2021年3月
2.3%	2.5%	2.8%	3.5%	3.3%	3.0%

・シンガポール国民の雇用維持のために、外国人労働者向け就労ビザ（EP）取得要件を厳しくするなどの対策（※）も行われました。※給与最低額を3,900シンガポール・ドルから4,500シンガポール・ドルに引き上げ。

■GDP成長率について

・2020年通年のGDP成長率は▲5.4%と、2019年通年のGDP成長率+1.3%からマイナス成長となりました。最も減少したのは建設業で、公共・民間工事共に受注が落ち込んだことが要因です。また、各種渡航制限の影響で主要産業の1つである観光関連（宿泊・飲食）についても大幅に減少しました。
 ・一方、製造業が好調だった要因として、コロナ禍において医薬品や医療機器関連の製造が堅調だったことが挙げられます。

（業種別成長率）出典：シンガポール貿易産業省

業種	2019年成長率	2020年成長率
建設業	+2.8%	▲35.9%
宿泊業（2019年は飲食業と合算）	+1.9%	▲28.7%
飲食業（2019年は宿泊業と合算）	+1.9%	▲25.1%
製造業	▲1.4%	+7.3%

・シンガポール貿易産業省は、2021年通年のGDP成長率を+4.0%～6.0%を見込んでいます。ワクチン接種に関して、国によって接種スピードは異なるとしつつも、シンガポールだけでなく、アメリカや欧州で広く接種が進むことから、内需・外需が回復し、景気回復に向かうとの予測を立てております。

報告者 副所長 本間 絢太（北洋銀行からの派遣）

■所見及び今後の取組について

- ・シンガポールの市中感染は 0 の日が多く、街中にも人が多くでており、経済的に余裕のある人たちは高級飲食店に集まり、一部活況を呈しているという話題もある中、ショッピングモールなどに入居の旅行会社の店舗などは空き店舗となっているなどコロナの影響を街中でも見ることができます。
- ・2020 年 12 月からは規制が緩和されフェーズ 3 となり、次第に厳しい規制も緩和されつつありますが、それでもコロナ前と同様に人が多く集まるイベントが無制限に開催できる状態にはなっていません。その中で当事務所としては、今年度実施した取組を踏まえ、ポストコロナを見据えたデジタルツールなどを活用した取組を来年度も実施してまいります。